

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（中部会場）概要

テーマ：「公大連携」の実例に学ぶ

演題：公共図書館と大学図書館の連携
－箕面市立船場図書館と大阪大学外国学図書館の一体運営を例に－

講師：日高 正太郎 氏
箕面市立船場図書館（所属：大阪大学附属図書館箕面図書館課）

会場：箕面市立 船場生涯学習センター 多目的室 3A、3B（6階）

日時：令和5年1月20日（金） 午後2時～午後4時30分

参加者数：18名（うち事務局9名）

概要：箕面市立船場図書館は令和3年5月に開館した新しい図書館です。箕面市の公立図書館でありながら、その運営を国立大学法人大阪大学が指定管理者として将来にわたって無償で担うというめずらしい図書館です。その興りは開館を遡ること7年前の平成29年10月、倉田箕面市長が平野大阪大学総長（ともに当時）を訪れ、延伸される北大阪急行電鉄の駅前に大阪大学外国語学部を誘致する構想をもちかけたことに端を発しています。

船場地区の新たなまちづくりを構想していた箕面市と、箕面キャンパスの施設老朽化などに頭を悩ませていた大阪大学の利害が一致し、協議を重ねた結果、箕面市立萱野南図書館と大阪大学外国学図書館の蔵書を移転して現在の船場図書館が誕生しました。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が大阪府に発令されており、開館してすぐに臨時休館という憂き目にも遭いましたが、それも解除されると周囲の期待を表すかのように大勢の利用者が船場図書館を訪れました。入館者数や貸出冊数は旧館時（萱野南図書館と外国学図書館の合計）を大きく上回り、貸出券の新規発行枚数は以前の10倍を超えています。

その理由は、箕面市の蔵書と大阪大学の蔵書は別々に管理され、階を分けて配架されていますが、箕面市の利用者も、大阪大学の利用者も互いに階を行き来して資料を閲覧したり、借りたり、学習室や研究個室も使うことができる等、可能な限り垣根を越えて両方の図書館を活用できるよう図られているからです。また、船場図書館のもつ公共図書館ネットワークを使えば、自館未所蔵の資料も容易に入手することができるため、学生にとっても益するところは大きいです。

こうした利用者にとっての恩恵の裏側には、運営する側の大きな苦勞があります。異なる組織を一体として運営する際の事務手続、組織の体制、費用の分担等は、開館前の準備段階から現在に至るまで、そしてこの先も船場図書館にとっても、箕面市と大阪大学にとっても、継続して考えてゆかねばならない課題です。

そうした悩みの種はあるものの、公立図書館がこれまで築いてきた図書館間の協力網と大学図書館の得意とする情報探索に関する知見、この双方の強みを併せもつ図書館の可能性は大きく拓かれています。京都府では、K-Libnetや連絡協力車が大学図書館と公共図書館をすでに結んでいます。この連帯をいっそう確かなものにしようと、船場図書館の例を通じて学ぶことのできた研修でした。

なお、質疑応答では、連携に関する具体的な助言を求める声、業務の詳細に関する質問の声が上がり、講師は丁寧に応答されていました。